

高齢者の大腸がん精密検査

自治体や人間ドックなどで大腸がん検診を受け、精密検査が必要と言われたら、大腸の内視鏡検査を受けなければならぬ。しかしこの検査、胃カメラ以上に苦しい検査といわれ、高齢者は受けるためらいがた。また、費用が分らない、この指摘もある。高齢者へ大腸がんの精密検査について解説する。

清水 厚子

ゆうゆうLife



- ・胃カメラより苦しいけど
- ・費用が分かりづらいけど
- ・大量の下剤を飲む…けど

千葉県市川市の山口さん(仮名)は3月9日、自治体の大腸がん検診の便通血テストで陽性が出て、内視鏡検査ができる病院で精密検査していただいたと言われた。

「この病院に行く必要が、費用はどの程度かかるのかな? 詳細な説明はなく、分からないことが多かった。しかも、このまま放置し、もしもがんだったら大変だ。」

山口さんは要約を出して、東京都内のある医療機関に相談したが、そのなる無難にもなかった。検査前に飲む薬と、その下剤が原因で下くなることもあった。

医療機関からは、下剤を飲まない検査として、①バリウム検査(血液を採取して腫瘍中のがん細胞を発見する)②腫瘍マーカー③の採血検査(癌種別の炎症を顕微鏡で「DNA」検査)④大腸の選択肢を顕示できれば、しかし、この検査を受けたいといひからず、頭を抱えてしまった。

国立がんセンターで15年間、内視鏡検査に携わり、現在は内視鏡検査を専門に行う東京癌中央区の藤井隆雄(フジノリヒコ)の副院長(副院長)によると、「便通血テストで陽性が出たからといって、大腸がんを心配するまでもないが、がんの早期発見に一番有効で信頼性の高いのは内視鏡検査」と説明する。

藤井院長によると、大腸がんは早期であれば、ほぼ100%近くを治す。しかし、進行がんでも自覚症状は少なく、症状が出たときには手遅れという場合も多いという。平成19年の厚生労働省の調査では、女性のが死の部位別トップ(全年齢)は大腸がんだった。

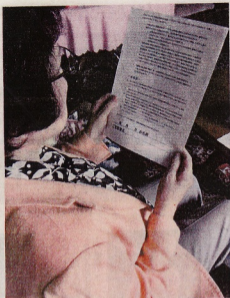
信頼性高い内視鏡

大腸がんの精密検査の費用は分らない。医療保険制度に詳しい医薬情報コンサルタントの秋元さんによると、精密検査の種類や実施施設などによって、医療保険が適用にならない場合があるのに注意が必要だといえる。

秋元さんによると、大腸内視鏡検査は「がんの疑いがある」とされる段階から医療保険が適用になる。1回でも便通血テストで陽性になれば、75歳以上の自己負担額(1割)は、約2,000円(プラスして薬)がかかる程度という。ただし、病院併設の検査センターがあり、自費で請求できる場合があり、自費扱いになる可能性がある。「事前に保険が適用されるか確認してほしい」と秋

元さん。大腸のバリウム検査も腫瘍マーカーと同様に、「がんの疑い」から医療保険が適用される。バリウム検査の自己負担額は75歳以上の場合は1,000円前後、腫瘍マーカーは数百円(どちらも検査料部分の金額)。一方、PET検査は現在、がん患者にしか医療保険が適用されていないため、「がんの疑い」では全額が自己負担となり、数万~十数万円以上と、施設により差が大きい。

秋元さんは「体調や年齢などその人に適した検査方法、内視鏡に熟練した医師が一番。医療保険については何らかの一番。医療機関については希望する医療機関センターでも確認してほしい」とする。



検査承諾書を読む「怖くて足が震えてしまった」と話す山口さん(仮名)

千葉県市川市